

社会政策学会 Newsletter

- ◇学会本部 大分大学 経済学部 石井まこと研究室
URL : <http://jasps.org> TEL : 097-554-7698 E-mail : mak@cc.oita-u.ac.jp
- ◇編集・発行 石井まこと(代表幹事) 榎一江・岩永理恵(Newslatter 担当幹事) 大西祥恵(事務局長)
- ◇事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株)ワールドプランニング
TEL : 03-5206-7431 FAX : 03-5206-7757 E-mail : jasps@worldpl.jp

【目次】

1. 第 143 回(2021 年度秋季) 大会オンライン開催にあたって
2. 役員選挙のお知らせ
3. 研究者育成フォーラム報告
4. 専門部会 2020 年度部会活動報告
 - ・雇用・社会保障の連携部会
 - ・日本・東アジア社会政策部会
5. 2020-2022 年 期 幹 事 会 報 告
 - ・議事録(第 8 回、9 回、10 回、11 回)
6. 承認された新入会員
7. 山本潔名誉会員の逝去について

1. 第143回(2021年度秋季)大会オンライン開催にあたって

第143回(2021年度秋季)大会オンライン開催実行委員会
委員長 福島大学 熊沢 透

東北東日本大震災・原発事故から十年の年、この秋こそはできることならばみなさまを福島にお迎えして対面開催を実現したかったですけれども、COVID-19の感染状況は依然として楽観を許しません。標記大会は引き続き通算四回目のオンラインでの開催といたします。日程は10月16日と17日の土日です。

学会ホームページにある社会政策学会史料集によりますと、前回の福島大会は1972年の6月、第44回のそれです。そして、「初めての試み」と記録されているその会場は、福島大学ではなく飯坂温泉の「あづま荘」でした。「あづま荘」は公立学校共済組合の保養所で、いまなお営業中です。「現代の青年労働者問題」というのが

その時の共通論題テーマでした。そのシリアスな問題関心と運営の長閑さとのギャップに驚いてしまいましたが、ともあれその半世紀後、福島「大学」としては再び会場提供の栄誉を逸しました。

すでにお知らせしましたように、ごく一部の会員有志のご参加を得て、18日月曜日には東京電力福島第1原発と同廃炉資料館へのエクスカージョンのみ、感染予防を徹底したうえで実地開催いたします。そうすることで、「震災・原発事故10年」の大会記録を学会史に刻みたいと思います。

共通論題テーマは「歴史研究からみる労働と生活の規範形成——〈働きかた〉〈暮らしぶり〉はどのように作られてきたのか」。社会政策が立ち向かうべき現実的な課題が山積する状況に対して、敢えて歴史的なパースペクティヴから、制度と私たちを規定する「規範」を本質的に捉え直す。そういう企画委員会と登壇者の方々の非常に高い志に、どうぞご期待ください。今回の共通論題は大会二日目です。10月17日その日は総選挙の投票日となる可能性もありますので、その場合はどうぞ期日前投票もお忘れなく。

2. 役員選挙のお知らせ

今年は、学会役員選挙が行われます。今回の選挙では、2022年春季大会にて開催される総会から2024年春季大会にて開催される総会までを任期として、本会の重要事項を審議する幹事と会計監査を選出します。その選挙を実施するため、幹事会から次の5名が選挙管

理委員に委嘱されました（「役員選挙に関する規程」第3条）。

東北・北海道ブロック	宮地克典
関東・甲信越ブロック	榎 一江
東海ブロック	木村牧郎
関西・北陸ブロック	杉田菜穂
九州・中国四国ブロック	角 能

上記5名の互選により杉田菜穂を選挙管理委員長に選出し、選挙管理委員会は選挙日程と選挙に関する手続きを以下のように決定しました。

1. 選挙公示日 2021年9月30日(木)

2. 選挙の方法

①有権者の資格は、前回と同様の基準による扱いとする。すなわち「2019年度までに入会されている会員については2018年度までの会費が納入されていること、2020年度以降に入会された会員については入会年度の会費が納入されていること」とする。

②選挙管理委員会は、選挙公示後直ちに有権者名簿、推薦文等の関係書類を全会員（但し、2021年7月末までに入会が承認された者）に郵送する。

③投票は、有権者による電子投票によって行い、投票の締め切り日時を2021年10月14日(木)17時とする。

3. 開票日、開票場所

2021年10月15日(金)に本学会の事務センターがある「榊ワールドプランニング」にて開票する。

4. 選挙結果の発表

2021年10月16日(土)・17日(日)に開催される社会政策学会第143回(2021年度秋季、オンライン開催)大会で報告し、大会終了後に発行するニューズレターに掲載する。

5. 役員の選出に関する推薦文

「役員選挙に関する規程」第7条により、役員選出のために会員を推薦することを希望する会員は、以下の要領で推薦文を全有権者に配布することができる。

①賛同する会員5名以上の氏名を含む推薦文(5名

以上の氏名を含めて600字以内)のテキストファイルを8月23日(月)17時までに、sugita@osaka-cu.ac.jp(杉田菜穂)宛にE-mailで送る(※発信者は、推薦文に「賛同する会員」として記入した推薦者(全員)のアドレスをCcに入れて発信してください)。

②選挙管理委員会は、推薦文を全会員に公開する。

6. 海外在住者の届け出

「社会政策学会会則」第43条により、国内に勤務先および通学先をもたない海外在住者は、その所属する地方部会を選択し代表幹事に届け出た時、その地方部会に所属するものとされている。2021年8月23日(月)までにその届け出のあった海外在住者については、当該地域ブロックの有権者名簿に掲載する。届け出のない海外在住者は、地域ブロックに所属しない会員として取り扱う。地域ブロックに所属しない会員は、幹事としての被選挙権を有しない。選挙権および会計監査としての被選挙権は有する。

7. 幹事・会計監査の被選挙権を有しない会員

「社会政策学会会則」第14条の規定によれば、幹事は連続3期を限度としている。今回の選挙で幹事の被選挙権を有しない会員は、次の3名である。

榎 一江、鬼丸朋子、杉田菜穂

「社会政策学会会則」第18条の規定によれば、会計監査は連続3期を限度としている。今回の選挙で会計監査の被選挙権を有しない会員はいない。

「社会政策学会会則」第24条の規定によれば、顧問は、幹事および会計監査の被選挙権を有せず、また、兼務することができない。今回の選挙で被選挙権を有しない会員は、次の14名である。

阿部 誠、岩田正美、大沢真理、埋橋孝文、遠藤公嗣、上井喜彦、高田一夫、武川正吾、田中洋子、玉井金五、久本憲夫、平岡公一、森建資、宮本太郎

「役員選挙のお知らせ」はメールリストとホームページを通じて通知し、役員を選出に関する推薦文は締め切っておりますが、ここに改めてご案内いたします。

学会名簿の情報更新がなされていなかったことから、

それをもとに作成された投票サイトの被選挙者名簿に被選挙権を有しない一部顧問の名前が含まれていることが9月15日にわかりました。それを受けて、選挙管理委員会は「投票期間、開票日を再設定して選挙のやり直しをする」といたしました。再選挙となりましたことで、既に投票を済ませておられた会員には再投票をお願いしなければならないなど、会員の皆さまにご迷惑をおかけすることになりました。このような事態が生じたことを、心よりお詫び申し上げます。

(選挙管理委員長 杉田菜穂)

3. 研究者育成フォーラム報告

研究者育成フォーラムは今期幹事会の重点事業の一つとして、2020年7月に立ち上げられました。小尾晴美(中央大学)、北井万裕子(松山大学)、佐藤沙織(尾道市立大学)、相馬直子(横浜国立大学)、松永伸太郎(長野大学)、米澤 旦(明治学院大学)を世話人として、運営されています。

2020年10月から2021年8月までの期間で、4回の定例研究会、2回の茶話会を開催しました。各回、10～15人の参加があり、学位論文につながる研究報告や、研究の進め方などの意見交換の場となっています。2021年度中に、あと2回程度の研究会を開催する予定ですので、どなたでもご参加できますので、関心のある方はぜひご参加ください。

研究会の情報等は、Facebookの公開グループページ(<https://www.facebook.com/groups/2040117472789142>)で案内しています。現在のところ、登録者は111名です。公開グループページでは定期的に学会関連情報の告知もしているので、お気軽にご登録ください。

また、グループページ、研究会とも非会員でも参加で

きる形にしておりますので、学会員ではない方でも、社会政策研究に関心のある方にお声がけください。何か、ご助言やご意見、何かお気づきの等があれば、世話人までお知らせください。

研究会等の実施状況(すべてZoom オンライン)

[定例研究会]

- ・第1回:2020年10月15日(土)15～17時
報告者 盛田賢介(一橋大学大学院)
コメンテータ 佐口和郎(東京大学名誉教授)
内容「瑕疵ある人に貸しを作る——身元保証・保護司・刑罰福祉」の報告とディスカッション
 - ・第2回:2020年11月15日(日)13～15時
報告者 寺澤さやか(東京大学大学院)
コメンテータ 萩原久美子(下関市立大学)
内容「女性の就労と不妊治療」の報告とディスカッション
 - ・第3回:2021年1月22日(月)14～16時
話題提供者 小尾晴美(中央大学)
松永伸太郎(長野大学)
内容 調査法ワークショップ①:フィールドワーク
 - ・第4回:2021年6月13日(日)13～15時
話題提供者 西村 健(松山大学)
米澤 旦(明治学院大学)
内容 論文投稿ワークショップ
- ##### [茶話会]
- ・第1回:2021年1月13日(水)12時10分～13時
 - ・第2回:2021年4月21日(水)12時10分～13時
(文責 米澤旦)

4. 専門部会2020年度部会活動報告

雇用・社会保障の連携部会

今期は会員全体の研究会を構想していたが、実現できたのは学会でのシンポジウムだけであった。すべてオンラインで活動した。地理的な障害を克服できたのは、分散している会員の状況にとり、大きな経験であった。来期はこれを踏まえ、オンラインによる活動の拡大を考

えたい。

第142回大会のに向けて、以下の活動を行った。

1. 研究会の開催 6回
2. 分科会「貧困理論と社会規範」を開催した(2021年5月23日実施)

(文責:高田一夫(一橋大学))

日本・東アジア社会政策部会

2020～21年度は、大会におけるテーマ別分科会の開催と社会保障国際論壇への協力を中心に活動を行ってきた。

1. 大会への参加

2020年度秋季（第141回）大会（オンライン開催）において、国際交流分科会との共催で、テーマ別分科会「コロナ危機と東アジアの社会政策」を企画した。この分科会では、中国と韓国から2人の研究者を招き、コロナ禍における両国の社会政策の展開について紹介してもらい討論を行った。

座長：野口定久（日本福祉大学）

報告1：趙徳余（復旦大学）「コロナによる貧困者就業へのインパクトおよびその対策」

報告2：金修完（江南大学）「コロナ以降における社会政策の変化——韓国の診断と展望」

討論者1：朴光駿（佛教大学）

討論者2：大泉啓一郎（亜細亜大学）

2. 社会保障国際論壇への協力

2010年から本部会が日本側の窓口となって毎年行っている「社会保障国際論壇」の大会が、2020年8月（第16回大会）に日本・北星学園大学（札幌市）で開催される予定であった。しかしコロナの影響により1年延期となり、2021年8月28～29日にオンラインで開催された。同大会に対して、本部会では参加者（報告者、討論者、司会者、通訳者、自由参加者など）の募集・選定を行い、日本から50名程度が参加した。

同大会の企画テーマは「超高齢社会における社会保障と経済振興——パンデミックからの復興」であった。主催側により特別講演が行われ、その後、日中韓3国からそれぞれ1名ずつ基調講演を行った。その他、所得保障、医療・公衆衛生、社会サービス、雇用、若手英語セッションなどの6の分科会で28の研究報告と討論が行われた。日本からの50名を含め中国（50名程度）と韓国（20名程度）から多くの人々が参加した。初めてのオンライン開催の試みであった同大会は、インターネット接続や同時通訳などにおいて大きなトラブルなく成功裏に行われた。

なお、2022年秋には、中国西安（西北大学）で第17回大会が開催される予定である。

5. 2020-2022 年 期 幹 事 会 議 事 録

5-1. 通算第8回幹事会議事録

日時：2021年4月10日（土）15～19時

場所：Zoom 開催

出席：猪飼、石井、石黒、伊藤、岩永、禹、鬼丸、金井、金子、上村、熊沢（透）、熊沢（由）、朱、菅沼、杉田、田中、所、兵頭、藤原、松本、水野、森（詩）、森（周）、吉村、大西

欠席：榎、首藤、畠中、布川

1. 新入会員の承認および会費未納会員の確認

3名の入会が承認された。また幹事会当日に事務局住所宛に入会申込書が届いていることが確認された入会申込者1名、代表幹事に入会申込書をメールにて送付している入会申込者1名がいることがわかった。そのため、後者については自著欄記入のうえ入会申込書を事務局宛に郵送していただいたうえで、両者についてメー

ルでの稟議を行うこととなった。さらに会員資格復活の申請1名があり、承認された。

2. 春季大会企画委員会

上村委員長より、共通論題の準備が順調に進んでいることが報告された。伊藤副委員長より、自由論題、テーマ別分科会の準備が順調に進んでいることが報告された。猪飼大会実行委員長より、春季大会のプログラムは今後1週間以内に発送される見込みであることが報告された。

また、スペシャルチャットを用いて、懇親会をオンラインで行うことが提案され、承認された。このオンラインでの懇親会について、今回は上村委員長が実行委員会に提案する形で実施されるため、実施にあたっての責任は実行委員会がもつことが確認された。

3. 秋季大会企画委員会

第141回大会にかんして、石井代表幹事より、当

初予算は100万円計上していたが、結果的には62万8000円の費用がかかったことが報告された。

第143回大会にかんして、秋季大会企画委員会の金井委員長より、新型コロナの状況を考えて、秋の全国大会もオンラインにて開催するとの提案がなされ、承認された。開催校は福島大学であり、オンラインに関する技術的な点についてのサポートは幹事会でも行う。大会参加費については、今後オンラインサポートの業者を入れて、参加費を徴収できる体制が整うかどうかなどの動向を踏まえたうえで決定することとなった。

第143回大会開催校の熊沢透大会実行委員長より、東京電力福島第一原発へのエクスカージョンについて、参加希望者が一定数いた場合、実施することが提案され、承認された。

秋季大会企画委員会の水野副委員長より、書評分科会については4セッションを予定しており、日曜日の午前中に開催されることが報告された。

これまで開催校間で引き継がれてきた学会開催のマニュアルに、オンライン開催が行われるなかで取り込まれることになった点を新たに書き加えたものと、オンライン開催にあたって作成された技術的な点にかんするマニュアルを、第143回大会開催校に引き継ぐことが確認された。

4. 幹事選挙について

石井代表幹事より、今年度は幹事選挙が実施される予定であるが、コロナ禍であることを考えてオンラインでの実施を検討していることが提案され、承認された。オンライン選挙を実施するにあたっては、現在の会則では、幹事選挙は「郵送投票」によって行うことが記されているため、会則に「オンライン投票」の言葉をつけ加えることを総会にはかるとの提案がなされ、了承された。また、総会にはかかる際に、オンライン投票の業者への委託のための予算組を行うことが了承された。

また、選挙管理委員5名のうち、2名を榎一江会員、杉田菜穂会員に委嘱することが提案され、承認された。

5. 大会における謝金支出について

石井代表幹事より、全国大会の共通論題において、社会政策学会のほうから非会員に報告の依頼をする場合、謝金を支払うことを幹事会での申し合わせ事項とす

るとの提案がなされ、承認された。謝金の金額は2万円とし、大会企画委員会の予算から支出されることとなった。

6. 学会誌編集委員会

鬼丸委員長より、進捗状況が報告された。第12巻3号は、2021年2月に発刊されているが、2か所誤植があったため、次号発送時に対応する。第13号1号は、初校戻りがなされている。投稿論文の応募状況は、2020年7月締め切り投稿論文は7本、2020年10月締め切り投稿論文は6本、2021年1月末締め切り投稿論文は7本となっており、この間多い状況が続いている。第三査読まで進むものも一定数あり、負担が大きくなってきている。こうしたこともあり、応募フォームの作成を考慮しており、春の大会あたりをめどに意見を出してもらいたい旨、説明がなされた。

7. 広報委員会

金子委員長より、地方部会にかんする案内をメーリングリストに掲載する要望について説明があり、議論がなされた。地方部会の活性化が重要な方針でもあることから、地方部会からの要望があればメーリングリストに掲載し、あまりにメーリングリストに掲載するメールが増えすぎるようなら改めて検討することとなった。

8. 国際交流委員会

朱委員長より、国際学会報告助成、基幹交流事業についての報告や検討事項の提起がなされた。国際学会報告助成にかんして、2名の会員への助成が決まっていたが、コロナ禍で国際学会がオンラインでの開催となったため、助成は不要となった。基幹交流事業については、韓国社会政策学会は今年の春大会はオンライン開催であり、現在報告者が1名決まっているが、もう1名の募集を続けていること、中国は春大会が中止となり、秋大会は対面式での開催をめざしていることが報告された。

朱委員長より、欧州との交流については、秋季大会に向けて分科会を企画する予定であることが説明された。欧州から1～3名の研究者・政策担当者を招聘する場合、これまで日本に招聘していた際は交通費・宿泊費を支払うことになっていたが、謝金は支払っていなかった。ただ、今回はオンライン開催になるため、謝金の支払いを

行うことが提案された。これに対して、石井代表幹事から共通論題の非会員には2万円の謝金を支払うことになったので、非会員の場合は同様の対応をすることが考えられること、海外送金の手数料などについては社会政策学会で支払うことなどが話され、国際交流委員会より具体的な提案を改めて行うこととなった。

また、朱委員長より、時差の関係で分科会をなるべく遅い時間帯におきたいとの話がなされ、秋季大会企画委員会のほうから報告の応募件数にもよるが、15時～17時の最後の枠を検討するとの回答があった。

9. 地方部会活性化担当

松本地方部会活性化担当幹事より、地方部会の活性化のために地方部会の名簿の作成、大学院生の発表・交流の機会の提供、研究交流の活性化、地方部会世話人のネットワークづくりを行っていくことが提案され、承認された。今後、地方部会世話人に説明し、意見交換を行うこととなった。また、地方部会の意味づけや区分けについて今後幹事会で検討していくことが提案されて、了承された。

10. 重点事業担当

猪飼重点事業担当幹事より、研究者育成フォーラムにおいて、これまで3回研究会等を実施してきたことが報告された(実施はそれぞれ2020年10月15日、11月15日、2021年1月22日)。

研究者育成フォーラムを実施するにあたっての実務を、週2時間で大学院生に担ってもらっていることが報告された。この点について議論がなされ、重点事業にかかわる担当者が監督者としてその業務内容を把握したうえで責任をもつこととなった。監督責任を明らかにする意味で、大学院生が実際に行っている業務内容を文書化する。

また、今後研究者育成フォーラムは恒常的な活動ができるような組織にすることが提案された。これに対して、幹事会直属ではなく、今後研究者育成フォーラムのこれまでの活動を総括したうえで、会則を作成し委員会と同様の形で学会内部に位置づけていくことを検討することとなった。

11. 学術会議問題への対応について

菅沼協議員より、学術会議から出された総会に向け

て作成された報告には関連学会の意見もかなり反映されており、社会政策学会幹事会から学術会議を支持する簡潔な声明を出すことが提案され、承認された。幹事会メーリングリストで稟議を行ったうえで、決定し、ホームページに掲載することとなった。

12. 次年度活動方針・予算案について

石井代表幹事から、2021年度の活動方針について提案がなされ、議論の結果、幹事会メーリングリストで稟議し、次回春の大会直前の幹事会にて諮ることとなった。

13. 大会若手研究者優秀賞について

石井代表幹事から、次期選考委員会のメンバーがすでに決定していることが報告された。また、原則として選考委員会がリストを見て選考の対象者を決める、フルペーパーの提出が締切に間に合わなかったものは対象外とし、単著のみを対象とする点についての確認がなされた。

さらに、若手研究者の範囲については、現在の規定だと期間の定めのない教育・研究職についていない者はいつまでも対象となる点などにかんして前選考委員会から問題提起があった。この点については、継続審議となった。

14. 名誉会員の推薦について

大西事務局長より、前回幹事会にて名誉会員候補の対象者リストが示されたが、それは現会員のみのものであったため、改めてワールドプランニングに退会者で候補となる元会員のリストを作成してもらった旨説明がなされて、リストが示された。今回の幹事会での推挙はなかった。

誰を名誉会員に推薦するかについてさまざまな見解があり、今後の方針について名誉会員の推薦をやめる、候補者を全員推薦するなどの意見も出されたが、継続審議となった。

15. 名簿作成・配布方式について

石井代表幹事より、名簿のPDFファイルはすでに完成しており、それにパスワードをかけた形で学会のHPにアップすることが報告された。その開封パスワードについては、春の全国大会のプログラム送付の際に別紙と

して同封することによって学会員に届けることが提案され、了承された。

16. 次年度以降の開催校について

石井代表幹事より、会員数の多い大学が示され、今後開催校として検討することとなった。

17. その他

次回の幹事会（オンライン）は、今後日程調整を行うこととなった。

5-2. 通算第9回幹事会議事録

日時：2021年5月17日（月）9～11時40分

場所：Zoom 開催

出席：猪飼、石井、伊藤、岩永、禹、榎、鬼丸、金井、金子、上村、熊沢、首藤、菅沼、杉田、所、兵頭、布川、藤原、松本、水野、森（詩）、森（周）、吉村、大西

欠席：石黒、朱、田中、畠中

1. 新入会員の承認

2名の入会が承認された。うち1名は書類がメールで届いているため、正式には書類の現物を郵送してもらったうえで承認されることが確認された。

2. 春季大会企画委員会

上村委員長より、準備は順調に進んでいることが報告された。テーマ別分科会で報告者が1名体調不良により報告を取りやめたため、確定版のプログラムではその報告の箇所に斜線がひかれることが確認された。

猪飼大会実行委員長より、大会への申込者は幹事会前日の時点で303名にのぼっており登録は順調に行われていること、登録に応じて自動的に送信される予定のメールがうまく届いていないケースがあったことが報告された。後者については、自動送信をいまいちど確認したうえで、フォローしきれなかった場合は手作業でメールを送信することとなった。

3. 秋季大会企画委員会

金井委員長より、5月21日（金）から6月25日（金）

の期間でテーマ別分科会と自由論題の募集が行われる予定であることが報告された。

4. 幹事選挙について

石井代表幹事より、オンラインでの投票が行えるように会則第12条の「郵送投票」の文言を「郵送投票なしオンライン投票」に変更する点を総会に諮ることが提案され、了承された。

5. 学会誌編集委員会

鬼丸委員長より、進捗状況が報告された。前回の幹事会で報告されたように、投稿論文の応募が増えていたり、第三査読まで進むものも一定数あったりすることから、負担が大きくなってきているので、応募フォームを作成し、学会HPにも掲載することが説明された。毎度文字数をオーバーした論文が投稿されているため、1行20文字で500行以内と明記したことが説明された。次回から運用することが提案され、了承された。

6. 広報委員会

金子委員長より、第142回大会共通論題のフルペーパーがホームページにアップされたとの報告がなされた。また、学会HPからダウンロードされる書類の一部が古いバージョンのままとなっているとの指摘があり、修正されることとなった。

7. 地方部会活性化担当

松本地方部会活性化担当幹事より、地方部会の世話人とオンラインで懇談会を開催し、意見交換を行ったことが報告された。今後地方部会ごとに名簿を用意すること、地方部会の世話人からは地方部会開催の情報を学会全体で共有することが要望されていること、地方部会の予算を柔軟に運用できるようにしてもらいたいこと、地方の若手研究者の育成を積極的に検討すること、地方部会の世話人の選出や組織のあり方について地方部会ごとに異なるため、幹事会でそのあり方についてガイドラインのような形で示してほしいことなどが説明された。

8. 重点事業担当

猪飼重点事業担当幹事より、若手の育成を目的として研究者育成フォーラムを来年度まで運用し、現幹事会

任期がきた時点で総括したうえで、その後について検討することが報告された。また、来年度に向けて学会としてハンドブックのようなものの作成を模索していることが報告された。

9. 日本経済学会連合

兵頭日本経済学会連合担当幹事より、日本経済学会連合 70 周年記念事業として、統一テーマのもとでの web 出版や YouTube チャンネルの開設を企画していることが報告された。社会政策学会としては、現時点では様子をみることが提案され、了承された。

10. 社会政策学会関連協議会

菅沼協議員より、コロナの影響が出ていたものの 7 月 24 日に協議会が開催される予定になったことが報告された。第 142 回大会総会にて、日本学術会議の任命拒否問題とこの間の社会政策学会による取り組みについて説明がなされることになった。

11. 次年度活動方針・予算案について

石井代表幹事より、昨年度にかかげた活動方針に新たに 3 点を追加することが提案され、審議、承認された。

12. 学会事務局のオンライン対応について

石井代表幹事より、今後オンライン対応を進めていくにあたって、ワールドプランニングにどの程度まで対応できるかについてとその予算を確認するとともに、その状況によっては他の業者との契約も視野に入れていくことが提案され、審議、承認された。

13. 大会若手研究者優秀賞の範囲について

石井代表幹事より、大会若手研究者優秀賞の若手研究者の範囲について、規定に「期間の定めのない教育・研究職についていない者で」、「大学院退学・修了者で、修士課程入学後 15 年以内で、」という文言を加えることが提案され、審議、了承された。新たな規定は、第 143 回大会から適用される。

14. 名誉会員の推薦について

石井代表幹事より、名誉会員の推薦があるかどうかの確認が行われ、第 142 回大会の総会では被推薦者は

いないこととなった。

15. 次年度以降の開催校について

石井代表幹事より、2022 年度の開催校は現在打診中であること、2023 年度の春の大会は立教大学で開催されること、2023 年度の秋の大会は立命館大学で開催されることが報告された。

16. その他

次回の幹事会（オンライン）は、5 月 21 日（金）19 ～ 20 時に開催する予定が確認された。

5-3. 通算第 10 回幹事会議事録

日時：2021 年 5 月 21 日（金）19 ～ 20 時 20 分

場所：Zoom 開催

出席：阿部、猪飼、石井、石黒、伊藤、榎、鬼丸、金子、上村、熊沢、朱、首藤、菅沼、杉田、田中、所、野口、兵頭、布川、福澤、藤原、水野、森（周）、吉村、大西

欠席：岩永、禹、金井、畠中、森（詩）、松本

1. 新入会員の承認

6 名の入会が承認された。

2. 142 回大会について

上村委員長より、大会準備は順調に進んでいるとの報告がなされた。また、フルペーパーの確認を行い、問題がないことの報告がなされた。

3. 社会政策学会賞について

学会賞選考委員会から問い合わせがあった学会賞の受賞者の範囲について、幹事会で確認を行ったうえで、野口委員長より、第 142 回大会学術賞は該当なし、奨励賞は選考の結果、朴光駿会員『朝鮮王朝の貧困政策：日中韓比較研究の視点から』とすることが提案された。審議の結果、奨励賞は朴会員の著作となることが了承された。

4. 大会若手研究者優秀賞について

兵頭選考委員より、第 142 回大会若手研究者優秀賞

は選考の結果、朴峻喜会員「労働運動と大学生の連帯——2013年韓国鉄道組合ストの事例から」とすることが提案され、了承された。

5. 選挙管理委員の委嘱

石井代表幹事より、選挙管理委員として新たに宮地克典会員、木村牧郎会員、角能会員に委嘱することが提案され、了承された。

6. 総会について

石井代表幹事より、2020年度の活動方針に対する総括が提案され、了承された。また、総会での報告内容が提案され、了承された。2021年度の決算案・予算案については、コロナ禍の影響で監査がまだ実施されていないため、昨年と同様、秋の大会の総会にて諮られることが説明された。菅沼幹事より、日本学術会議の任命拒否問題への対応についての説明内容の提案があり、了承された。

7. 次回の幹事会の日程

次回の幹事会は2021年7月12日(月)15時よりZoomにて開催されることが承認された。

5-4. 通算第11回幹事会議事録

日時：2021年7月12日(月)15～18時

場所：Zoom開催

出席：猪飼、石井、伊藤、禹、榎、鬼丸、金井、金子、上村、熊沢、杉田、所、畠中、布川、藤原、水野、森(周)、吉村、大西、菅沼

欠席：石黒、岩永、朱、首藤、田中、兵頭、松本、森(詩)

1. 新入会員の承認

大西事務局長より、7名の入会申請があったことが報告され、審議の結果、7名の入会が承認された。

2. 幹事選挙について

石井代表幹事より、7月9日に第1回選挙管理委員会を招集し、委員の互選により杉田菜穂会員を委員長として選出したことが報告された。杉田選挙管理委員長より、9月6日公示、10月6日締め切りでオンライン選挙

を実施する方針が説明され、了承された。

3. 事務委託先の変更について

石井代表幹事より、学会業務のオンライン化に伴い、現在の事務委託先が対応できないため、別の業者に変更する方針が説明され、新しい業者と正式に交渉を始めることが承認された。

4. メーリングリストの不具合について

石井代表幹事より、学会メーリングリストで不達事例が散見されることが報告された。ワールドプランニングでは原因不明とのことだが、8月初めに選挙関連の情報を流す必要があるため、対応が協議された。まず、ワールドプランニングに状況の改善を要求し、時間的に難しい場合は、広報委員会で新しいメーリングリストを作成し、応急的に対応する方針が確認された。

5. 人文社会系学協会連合連絡会メーリングリストへの参加について

石井代表幹事より、人文社会系学協会連合連絡会メーリングリストに代表幹事が参加することが提案され、承認された。

6. 今後の大会開催校について

石井代表幹事より、大会開催校について、2022年秋季は日本福祉大学、2023年春季は立教大学、2023年秋季は立命館大学で開催することが報告された。2022年春季大会については、オンラインかオンラインと対面のハイブリッド型かという2つの選択肢が示され、審議の結果、名古屋大学を開催校としてオンライン開催する方針が承認された。

7. 今後の幹事会日程について

次回の幹事会は、10月7日の選挙後、秋季大会の前に開催する予定が確認された。

8. 秋季大会企画委員会

金井秋季大会企画委員長より、第143回大会の申し込み状況が報告され、自由論題報告18件、テーマ別分科会6件の採択が提案され、承認された。なお、自由論題報告において研究会報告を既発表とみなさない

方針が確認された。

9. 春季大会企画委員会

上村春季大会企画委員長より、第144回大会の共通論題として「2050年への社会政策——環境と社会の持続可能性を求めて」を5月14日にオンラインで実施する企画案が提案され、承認された。海外からの非会員報告者について、オンラインで旅費が必要ないこと、余人をもって代えがたいことから、特例として500ポンドの謝礼(原稿料を含む)を支払うことが承認された。また、通訳等で必要になる支出は、企画委員会経費から支出することが確認された。

10. 学会誌編集委員会

鬼丸編集委員長より、13巻2号の進捗状況、投稿論文の応募状況、投稿論文応募フォームについてウェブ上に掲載したことが報告された。

11. 広報委員会

金子広報委員長より、研究者育成フォーラムの茶話会のお知らせをメーリングリストで流すことの確認があり、若手育成の観点から積極的に情報を流す方針が確認された。

12. 国際交流委員会

欠席の朱国際交流委員長に代わり、石井代表幹事より、5月28日の韓国社会政策学会(オンライン開催)および6月5日のLERA(アメリカ雇用労働関係学会)でセッションを行ったこと、2021年秋季大会で国際交流分科会の企画を出したことが報告された。

13. 地方部会活性化担当

熊沢会員より、前回の幹事会后、地方部会の会員名簿が得られ、研究会等開催をメーリングリストで流せるようになったことが報告された。

14. 日本経済学会連合

榎幹事より、5月24日に日本経済学会連合評議員会(オンライン)があり、兵頭幹事が学術会議任命拒否問題への対応を要請したが、連合としては対応しないと回答があったこと、70周年記念事業への参加表明はそれほど多くなかったことが報告された。

15. 社会政策学会関連協議会

菅沼幹事より、7月24日に総会を行い、次期活動方針を決める予定であることが報告された。

6. 承認された新入会員(2021年7月12日)

①	李省翰	佐久大学人間福祉学部	社会保障・社会福祉
②	松下茉那	神戸大学大学院国際協力研究科	社会保障・社会福祉、生活・家族
③	大内裕和	中京大学教養教育研究院	労使関係・労働経済、社会保障・社会福祉、生活・家族
④	萩田翔太郎	NPO 法人 POSSE	労働史・労働運動史
⑤	青木尚人	立教大学大学院経済学研究科	社会保障・社会福祉
⑥	小山田建太	常磐大学人間科学部教育学科	労使関係・労働経済
⑦	小柳達也	八戸学院大学健康医療学部	社会保障・社会福祉

7. 山本潔名誉会員の逝去について

社会政策学会・名誉会員でありました山本潔会員が2020年末にご逝去されました。

謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

(代表幹事 石井まこと)